

なほ

8月号
vol. 162



特集



ゆ〜とあい
相談編

「青い空と青いクジラ」
出城3丁目付近にて撮影

新型コロナウイルスによる影響でお困りの方へ にしなり隣保館スマイルゆ〜とあいからのお知らせ

皆様もご承知のように、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっていることから、政府が緊急事態宣言を発令。大阪府においても、緊急事態宣言期間中における府民生活の安全・安心を守る取り組みが進められています。
もし下記のようなことでお困りであれば、にしなり隣保館ゆ〜とあいまでご相談ください。

こんなことでお困りではありませんか？

◆生活費やすまいのこと

- ・収入が減少し、生活に不安を感じている。
- ・住居を失いそうかどうか分からない。

◆しごとのこと

- ・しごとの売上げが大きく減少した。
- ・会社から休むように言われて収入が心配。

◆給付金のこと

- ・コロナ対策でどんな給付金があるの？
- ・給付金に必要な書類、書き方がわからない。

このようなことでお困りの場合は「ゆ〜とあい」までご連絡ください！

にしなりスマイル隣保館ゆ〜とあい
〒557-0024 西成区出城2丁目5番9号 パークコート1F
TEL: 06-65661-8801

など様々な給付金が出された。ただ、これも税金だ。ところで、にしなり隣保館ゆ〜とあい(以下「ゆ〜とあい」)では、日頃から住宅、福祉、医療、教育、就労、人権など様々な相談支援をする「総合生活相談事業」を行っている。その一環として2017年から「居住

地域住民の「困ってるねん」

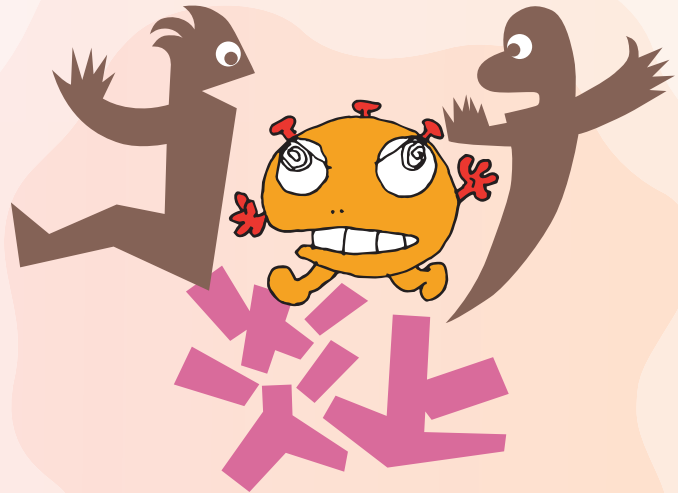
「困りごとはないですか?」と呼びかけてから程なくして、ゆ〜とあいには「家と仕事を失った」「食料がない」「給付金のことを教えてほしい」、そんな相談が多く寄せられた。

賑わっていた難波には人の姿がなくなつた。それは、これまでに見たことのない印象的な光景だった。宣言解除後しばらくは小康状態を保っているような印象もあったが、東京だけでなく大阪でも第二波が危ぶまれる現状である(2020年7月上旬)。

今回のコロナ禍では、なんとか踏ん張って生活していた人たちが、生活困窮状態に陥つた。様々なストレスがDVにつながった家庭もあった。IT化についてい

けない人たちは情報から置いてけぼりになった。事業者は長期間の困難と困惑を強いられた。経済的なダメージはリーマンショック以上になるとも言われている。こうした窮状に対し、国では全国民を対象にした「特別定額給付金(1人に10万円)」「や「住宅確保給付金(家賃)」、中小企業・個人事業者向けの「持続化給付金(コロナ影響あり事業者へ100〜200万円)」、大阪府でも「休業要請支援金(休業要請を受けた事業者へ50〜100万円)」

支援法人」として大阪府の指定を受けて住宅確保要配慮者の入居・転居や入居中の見守り支援を行い、さらに2018年からは生活困窮者支援活動として、食料品や生活用品を無償で提供および貸出する店舗型フードバンク「くらリストア」を実施している。こうした事態の下でこそ、普段のノウハウを活かさなくてはならない。まずは、できる限りわかりやすくシンプルなものを作ろうと作って「困っていることはありませんか?」と地域住民に呼びかけ、相談スペースを特設して地域住民の相談に備えた。



未曾有の災上だった。大阪の街が止まった。マスクが売れた。テレワークを始めた。突然の長い春休み——。みなさんはいかがお過ごしだったろう。わたしたち、にしなり隣保館も感染拡大の予防に配慮しつつ、地域に寄り添ってきたつもりだ。その現場で見えてきたいまを振り返っておきたい。コロナ禍以後、どうすれば私たちは再び出会うことができるのか。そのための備忘録として。

コロナの代償

コロナウィルスのニュースが流れ出した頃は、これほど影響が大きくなるとは想定できなかった。「オーバーシユート(爆発的感染)」「クラスター感染(集団感染)」「アウトブレイク(突発的発生)」「ロックダウン(都市封鎖)」などの聞きなれない単語が氾濫した。

命を守るために、ステイホームで感染拡大を阻止する緊急事態宣言がだされ、学校は休校し、働き方はテレワーク中心になり、平日休日を問わず多くの人出で

ゆ〜とあい 相談編



相談結果155件（4月1日～6月30日時点）	
特定給付等給付に関する事	15件
住宅に関する事	45件
生活に関する事	41件
就労に関する事	3件
休業要請に関する事	13件
持続化給付に関する事	37件
その他	1件

一例を紹介すると、ある日、職場の寮で生活していた若者がゆくとあいによって来た。今年に入ってから仕事も住まいも同時に失ったその若者の顔は、不安でいっぱいだった。「大丈夫やで」と声をかけながら、地域で不動産業を営む会社と協同してオープンしたばかりの「見守り付きシェアハウス」を紹介した。本人の意向で入居を決め、家賃は「住宅確保給付金」を活用し、安定した収入を得るために仕事を探すことにした。不安定ではあるが、路上生活を余儀なくされる状態ではなくなった。

食料や生活用品に関する相談は「くらしストア」の利用につなげた。通常は、毎月2回の開催だが、今年3月から5月にかけては開催日以外の相談（利用）が増えた。「仕事を失い生計が立たなくなった」「テレワークや休校で食費がかかる」「生活保護の申請をしているが、通常より決定に時間がかかっている」など、緊急性を要

①一度添付したデータは別データで書き直ししない限り削除できない、②白色申告者が添付した確定申告書の2頁目を勝手に青色申告とみなし、「書類不備エラー」になるなど、じつに単純な理由である（現在は修正され添付データの削除などではできない）。さらに、国が設置しているコールセンターに問い合わせても回線が混み合い、一向に電話がつかないのだ（中に

する相談が多かった。その一方で、休校や店舗休業によって給食用の食料や商品が余っていた。食料を必要とする人と食品ロスやマッチング（かけ橋）する「フードバンク」が命をつなぐ取り組みであることを再認識させられた。給付までをつなぐ「現物」の重要性が身に沁みだ。

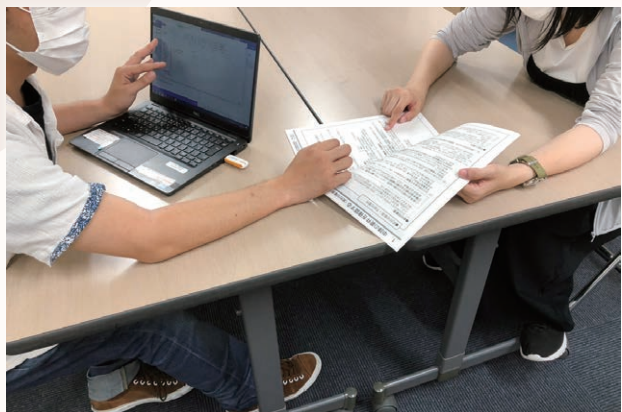
初めての給付金申請に困惑

ゆくとあいでは事業者向けの相談も行った。各種給付金に関する相談で多かったのが、「申請方法がよくわからない」だった。特に「持続化給付金」の申請はインターネットのみで、それ以外の方法は用意されていない。家や職場にパソコンやネット環境がない、携帯もガラケーで普段から全くネットを使わない人にとって、申請方法が障壁になってしまった。

申請の手順はメールアドレスでの仮登録から始まるが、この登録前の段階では1日20回かけて繋がらなかった人もいた。慣れると20分程度で終わる作業だが、はじめての人にはやはり難しいだろう。そして今回、申請手続きをサポートしてあげてくれたことがある。それは、日々の売上を記録する帳簿で苦勞されている事業者が意外と多くいることだった。簡単なものでもいいので帳簿をつける習慣づくりが必要だと感じた。

住民のホッとした顔をみてホッとした

コロナ禍は、現役世代を直撃した。非正規やパートなど不安定な仕事に就いている方、個人事業主や中小零細企業の方からの相談が多数だった。しかし、他方で年金や生活保護などセーフティネットで生活されている方からの相談は多くなかった。現物給付や各種申請手続きのサポートは喜ばれたが、この地域の「情報リテラシー」の課題も痛感した。



まずいた。そもそもメールアドレスを取得しておらず、その取得の方法もわからない人が想像以上に多く、アドレスの取得が支援の第一歩となった。申請手続きをすべて自分で行った人でも、データ不備のメールが返ってくるが多かった。申請用のWEBページがかなり不親切で、

手続きの効率化や迅速化ということで、キャッシュレスやネット申請が当たり前となりつつあり、この流れから取り残されていると不利益を被ることも増えてきた。大阪府がコロナ対策で実施した自宅での食事促進「デリバリーポイント補助」もそうだった。消費増税対策で実施されてきた「キャッシュレス・ポイント還元事業」もそうだった。

相談や支援のなかで、「よかった」「ありがとう」「本当に助かった」「もう少し頑張れそう」などの言葉や笑顔をいただいたときは、私たちもホッとした。地域住民が困っている時にこそ、相談やサポートなどゆくとあいの果たす役割は大きいと実感した。ただ、非常時や困ったときの相談だけではなく、取り残されないよう平時からの備えを応援することもゆくとあいの新たな役割だ。

文責：山村裕太・西田吉志・田岡秀朋

にしなりもん

西成にもまだまだ発掘されていない文化資源・社会資源は存在するはず。これら西成産のモノやコトを「にしなりもん」と名づけ、その由来やエピソードを辿っていきます。

鶴見橋商店街の 有名居酒屋 丸一屋

今回は鶴見橋商店街の有名店「丸一屋」にお邪魔しました。店の一階はテーブル席とカウンター席、2階には宴会用の座敷もあります(予約可)。

丸一屋の特徴はなんととってもメニューの豊富さ。どれもおいしそうで、注文するのにかなり悩んでしまいます。どれにしようか迷って楽しむのも一興ですが、『なび』をご覧のみなさまには、あえて筆者おすすめメニューをご紹介します。

まずはなんととっても新鮮なお刺身。魚だけでなく、貝のお刺身もとてもおいしく、お酒のアテや前菜にピッタリ。その次、揚げ物が欲しくなったら定番の天ぷらがいい。言い古された表現だが、衣のサクサクと海老(具)のプリプリの相性が抜群、焼酎や日本酒に最適(裏メニューに天丼もあるよう)。ガッツリ食べたいときには、ポークチャップや豚カツ。お酒との相性もバッチリ



だが、ここは白飯との最高のマッチングを推したい。お酒を飲めない人でも、満足できるお店だ。

今は夏真っ盛りだが、冬になったら寄せ鍋、とりなべ、なべ焼きうどん、湯豆腐がおすすめ。さらに、てっちり鍋まであるから驚きだ。このように幅広いラインナップの鍋物、丸一屋のはなんととっても出汁がうまい！一人鍋もあるので気軽に注文して、出汁のうまさ堪能してほしい。

野球選手で「走・攻・守」の三拍子そろった選手は「オールラウンダー」と称賛されるが、丸一屋は「早い・安い・うま

い」の三拍子がそろったオールラウンダーな居酒屋。素晴らしい。宴会でも一人飲みでも楽しめるので、ぜひ足を運んでみてください。

最後に、突然の取材依頼にもかかわらず、快く引き受けてくれたマスター、ありがとうございました。

丸一屋

住所：西成区鶴見橋3の8の17
営業時間：16時～22時
定休日：毎週水曜日(但し、祝日の場合は翌日に振替を
予約：06-6568-1860

温かさ溢れるお弁当屋 さんくすの木

お昼時になると近所の人や会社員で店先が賑わっているお弁当屋さんが「ゆくとあい」の近くにある。その名は「くすの木」。平成22年から営業を開始しており、営業時間は午前10時～午後14時、親子3人でやっている。お三方どちらもとても気さくで話しやすく、いつも温かい笑顔で迎えてくれる。ほんのひ



とときだが気持ちも和むお気に入りの店だ。子どもから親子連れのお客さんも幅広い世代からの人気があつて、じつはゆくとあいスタッフもよくお昼を買いに行っている。

コロナの影響による営業自粛は残念だったという。いつも行ってる店が閉まっていると、こちらもなんだか寂しい。「いつ開くのかな？」と店の前を通り過ぎる日々が続いた。営業が再開すると、さっそく「今日のお昼はくすの木にしよう！」とお弁当を買いに行った。

「唐揚げ弁当」や「焼魚弁当」といった定番弁当が並ぶなかで、「ミルフィーユ

とんかつ弁当」というのはユニークだ。メインのおかずの種類も豊富だが、煮炊き物などの副菜が3、4品入っているのが嬉しい。家庭の味がいただける。その他にマカロニサラダやハムカツ、半熟玉子コロッケなども別売りで。子どもの人気は唐揚げらしい。弁当だけでは物足りないときに一緒に頼んでみたことがあるが、ボリューム満点でお腹いっぱい、すごく満足感のあるお昼になった。

温かい弁当と温かいおかず、温かい笑顔が溢れているので、「お昼以降からも元気に頑張ろう」という気持ちになれるお店。こんなお弁当をいつまでも味わえるよう今後も「くすの木」が営業し続けることを願っている。いつもおいしいお弁当をありがとうございます。

くすの木

住所：西成区長橋2の4の36
営業時間：10時～14時
定休日：土日・祝日
予約：06-6568-5635

文責：山村裕太・寺島史規



【沖田一志】テキストエディタの乗り換え錯誤中。バージョンアップ購入し続けて同じものを20年以上使ってた。20世紀は制限も緩くて安価。徐々に値上げ続きで我慢が限界に…で決めました。



【佐々木敏明】病む人の心の底の花曇り 黄泉兆すわが内臓に極暑くる 切開ししばし屍となる真夏



【田岡秀朋】マイナンバーカードとキャッシュレス決済を紐づけさせれば、5,000円が還元されるマイナポイント事業。素通りしない策を考えなきゃ。



長野公園に勤務するわたくし大門が、勤務地やMyフィールドに棲む生き物の生態や豆知識などを紹介していきます。実用的な知識だけでなく生き物好きな人間の私的な関心も多いかも。どうぞお気軽に読んでください。



左：カブトムシの雄 右：カブトムシの雌



vol.12
里山の王者
カブトムシ

今年の真夏の季節は、新型コロナウイルスCOVID-19の感染状況から目が離せない日々が続く、油断禁物。日中の日射しや熱帯夜の蒸し暑さによる熱中症にも要注意。体調には十分お気を付けください。

さて、今回は子どもたちの夏の憧れ・カブトムシをご紹介します。

カブトムシ(学名:Trypoxylus dichotomus)は昆虫類コウチュウ目コガネムシ科に属する大型のコガネムシの仲間です。東南アジアを中心に広く分布し、国内では亜種ヤマトカブト(学名:T. dichotomus septentrionalis)が北海道・本州・四国・九州と広く分布しています。また、沖縄には固有亜種オキナワカブト(学名:T. dichotomus takarai)ほか周辺諸島と屋久島・種子島にはそれぞれ別亜種があり、普通のカブトムシを含め全5亜種が国内に生息しています。平地から山地にかけて落葉広葉樹を中心とした雑木林に生息していますが、都市部の緑地公園などでも見かけます。

角を除いた大きさは30~55mm前後と、甲虫(※)の仲間としては最大級の大きさ。茶褐色や黒褐色のがっしりとした体つきで、雄の大きな頭角と小さな胸角が際立っています。幼虫・成虫ともに食植性で、幼虫は土中や腐朽材中で腐葉土や分解の進んだ朽木などを餌に成長し、5月下旬~7月にかけて羽化します。成虫は夜行性でクヌギやコナラなどといった主にどんぐりをつけるブナ類樹木の樹液に集まって吸汁し、9月頃まで活動します。

クワガタ類と並んで、カブトムシは昔から昆虫採集をして遊ぶ子どもの憧れの的であり、愛玩動物として飼育されてきました。昨今の「カブクワブーム」で国内外産問わず人気を博したことから一般流通が盛んになった一方で、野外に逃がしてしまったり、無責任に自然に戻してしまったりという行為が度々報告されています。在来種である普通のカブトムシはもともと北海道や沖縄には生息しておらず、いまでは「国内外来種」として生態系への影響が懸念されています。愛玩動物の在り方に物議を醸している本種ですが、今も昔も雑木林の身近なスターであることには変わりなく、昆虫採集という文化のシンボリックな存在です。

カブトムシは私の職場である長野公園の全域に生息しており、梅雨明け前から初秋にかけて姿を見せる身近な昆虫です。ただ、その場所が主に園内のトイレというのが残念というか、少し驚きです。一方、ここ西成でお目にかかったことはありませんが、街灯などに飛来する可能性はあるかも。この夏はぜひ少年の頃を思い出しながら雑木林で生きる本種を探してみたいかがでしょうか。

※甲虫：空になった前翅が背中を覆う昆虫の仲間のこと。

大阪府宮長野公園
〒586-0051 河内長野市末広町581-1
TEL: 0721-62-2772 FAX: 0721-62-2810
https://www.toshi-kouen.jp/staticpages/index.php/nagano_top



7月と言えば「七夕の日」。みんなで作った飾りや短冊を笹に飾り付けました♪飾りは子ども達がつくったスイカや輪つなぎ☆おうちの人と自分たちの書いた短冊は願いを込めて飾りました♪



たぐの 3くふうたま



わかちあう

分けるという行為を「区切る」と「分かち合う」に区別するなり、両者の違いは、分けた部分同士の関係性に思いを寄せるか否か。壁で明確に区切って関係を断つのか、そうじゃない方法で限りある空間をデザインするのか。今回は後者のヒントを、従来の木造住宅にみられる段差や襖、仕上げ材の工夫から考えてみる。

段差は、衛生面や室内の快適性に配慮して、足元や天井高により水回りや玄関、廊下と居室を分ける。リビングとして使われる洋室や和室は、畳という構造上の段差や、床座という生活様式による天井高の違いで空間を優しく分かつ。襖は、催事などでは取り外されて複数の部屋を繋ぎ、居間と縁側を分かち障子は明るさを優しく取り入れ、開け放たれると外と中を滑らかに繋ぐ。庭の緑もさぞ映えるにちがいない。壁紙やタイルや漆喰など、天井・壁・床の表面を覆う仕上げ材は、関係性を断ち切る仕切りではなく、雰囲気演出によってほんのりと部屋を分かつ。是非、現代風を試案してみたい。

(安田拓也)



日本家屋の空間構成

ハナレバナレになった人とまち。くらしの窓から紡ぐヒントを探してみる。



[安田拓也] 先月は余裕がなく自炊はお休み。外食ついでに、ついお酒やアイスを買ってしまう。ああ、どんだんお金が出て行く。まあ、暑さを我慢して熱中症になってもな、と自分を慰める。



[西田吉志] 今年の6月から地元の中学校内で「居場所」事業をスタートした。僕は、高校よりむしろ中学校の「進路」の方が大切だと思う。やむなく行く高校ではなく、自分の見つけた進路を進んでほしい。



[寺島史視] 子どもの事業をしていくなかで若手や女性のボランティアスタッフが必要となってきた。ボランティアを募集するためにも、今の事業の意義や目的、地域での在り方というものをもう一度、考えていこう。



[谷口円] 村上春樹と「なるう系」と称されるラノベの共通点について考えていたら、村上作品の主人公が「やれやれ」と言う度に面白くなってしまいういにかかりました。やれやれ。

葉っぱの吐見

私は草木が大好きです。とくに観葉植物には心癒されます。私と葉っぱとのお喋りを聞いてください。



「笹の葉っぱ」の巻

たくさんさんの短冊をまとったわたし。短冊に書かれた願いごと。みんなの願いが叶いますようにとお祈りした。でも今年の七夕は雨。天の川はかくれんぼ。1年に1度しか会えない、ひこ星とおひ姫。今年も、リモートデートだったのかな？ だけど、来年はキラキラ光る天の川で会ってほしいな。絶対会ってね。

赤井まゆみ

笹の葉のこと

ササはイネ科タケ亜科に属する植物。笹の葉には防腐作用があり、料理や食材、特に保存食を包む為に使われる。花言葉は「ささやかな幸せ」

皮算用 胸算用

にしなり隣保館の館長が日々の出来事について胸のうちに皮算用していることを語っていくよ。



(寺本良弘)

いい湯かげん

どんな附帯決議がつくのかな

コロナ禍があっても大阪都構想の法定協議会は予定通り進行し、6月19日に賛成多数で協定書案を可決、府議会は8月28日、大阪市議会は9月3日を目途に議決し、11月1日には住民投票が実施される。松井市長は、両議会議決の前にコロナ第2波の状況を見て、住民投票実施を最終判断すると明言している。

賛否はともかく、合区一つでも至難だったのに、大阪府を大阪府に吸収合併するという大改革案(暴論と言っ人もいる)を二度も住民投票に持ち込んだ知事・市長の手腕は、見事だとしか言いがたい。しかも、コロナ禍という難問にも揺るがないのだから凄い。

しかし、だ。だからこそ、知事・市

大阪市民はホントに難しい歴史

「附帯決議だ。一つはコロナ禍への

長はこれから3ヶ月間、苦悶の日々を過ごされることになる。5年前の、賛成が僅差で反対を上回ると予測された住民投票は、蓋を開ければ僅差の逆転だったからだ。直近の世論調査(6月28・29日付「日経新聞」等)では、賛成49%・反対35%と予想以上に差が開いたかに見える。しかし、これは流動する。大阪市の廃止を市民自ら決するのはとても高いハードルだからだ。ましてやコロナ禍だ、市民は揺れ動く。前回の住民投票の否決で橋下さんは引退されたが、同じ結果になれば、その後の言動からして松井市長も吉村知事も深く身を処せられるのだろう。

的な決断に立ち会うことになってしまった。知事・市長を権力者、無法者と断じている人は何の躊躇いもないだろうが、この10年の改革をそれなりに支持し共感しつつも、大阪府廃止にまでは想像力が及ばない市民は、躊躇い、苦悶されることだろう。打ち明けた話、ボクもその躊躇う市民の一人だ。

ボクは、この拙稿でも、選挙で信を得た上に退路を断って臨もうとする知事・市長の改革提案に対して、「都構想の対案は廃案」「住民投票は何回もやるもんじゃない」なんて肩透かしのような態度は失礼だ、せっかくな改革案には対案を出して反対すべきだと書いてきた。だから、総合区への移行、大阪府を残したままの府市の限らない一元化が良いとも書いてきた。実際、法整備も整い、公明党が提案し、橋下市長(当時)も妥協され、都構想の総合区への軟着陸が実現しそうな時もあった。でも、そうならなかったから、もはや繰り返す。

対応。一三五〇億円と推計される移行コストはこの状況下で見直しを迫られよう。二つは成長戦略の再検討。IRもカジノも万博もインバウンドも民営化も、修正を加えてバージョンアップすると決議して欲しい。三つは医療介護の再構築。コロナ禍で進行した脆弱性を検証して欲しい。四つは住民参加。議員定数や地域福祉圏域等に断続的な改革の道筋を示して欲しい。しっかりとした議論を展開し、ちゃんとした附帯決議を残してくれることを期待する。その後、いよいよ住民投票を迎えたい。ボクは無念さと躊躇いを感じながら、一票を投じることにする。



富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。



[若松司] みなさん、マスクの着用にはぜひ慣れませんか？ 私はいっこうに慣れないので、自分でルールを作って場面ごとに判断することに。公共交通機関では着けるようにしています。



[山村裕太] プロ野球が開幕しましたね。阪神の勝率は7月12日時点で3割8分9厘。全盛期のイチローの打率と一緒に考えればプラス思考になります。

地域の縁を心でつなぐ

心の時間

星野富広さんの詩に「いのちが一番大切だと思っていたころ生きているのが苦しかったいのちより大切なものがあると知った日生きているのが嬉しかった」とあります。一般的には自分の「いのち」が一番大切ですが、そこに苦しみの原点も含まれています。この苦しみからの解放の為「いのち」より大切なものと出会うことも一案です。

しかし極端に宗教や国家を「いのち」よりも大切なものにする、宗教の為に多くの「いのち」が失われたアメリカ同時多発テロ事件や、国家の為に「いのち」を捧げた特攻隊員のように、多くの人の悲しみを生みます。

相田みつをさんの詩には「過去無量のいのちのバトンを受けついでいまここに自分の番を生きている」とあります。自らの「いのち」は有限ですが、永遠の「いのち」と出会うことで、むなしく終わることのない「いのち」に変えることが出来ます。今年のお盆は、ご先祖様の「いのち」を自らの「いのち」の中に感じ、それをまた次につなげて行くきっかけにしたいかがでしょうか。

松向寺 通法

ココドコ

ココはドコ？
おたしはぐ〜レ？
編集部が厳選した
「にしなり100景」
大公開！

一面ツタに覆われた建物です。ちょっと幻想的ですが、中はどうなってるんでしょうか。ココがドコだかわかった人は、ゆ〜とあいの受付まで！正解者にはドリンク無料チケットをプレゼントいたします（先着10名様限り）。回答期限は8月末日、ふるってご回答ください！

【先月号の答え】 南津守の島忠ホームズ付近から見た、川沿いの工場でした！後ろにチャリと写ったのがね橋がヒントでした。



2020年6月撮影



ゆ〜とあい

にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆ〜とあい」は、地域コミュニティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか？お悩み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

なび8月号(vol.162)
発行日:2020年8月1日(創刊日:2007年1月1日)
発行:株式会社ナイス
住所:大阪市西成区長橋3-6-33
電話:06-6563-1156
E-mail:info@nice.ne.jp
url:http://www.nice.ne.jp/

編集長:若松司
編集:沖田一志、佐々木敏明、岡田秀朋、
寺島史視、西田吉志、安田拓也、山村裕太(あ
いうえお順)
イラスト:hidarimakい デザイン:谷口円

facebook: <https://www.facebook.com/navi.nishinari/>

facebook

